



第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館展示

「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」

作家は、下道基行+安野太郎+石倉敏明+能作文徳

キュレーターは、服部浩之に決定

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、2019年5月11日（土）から11月24日（日）にかけて、イタリア・ヴェネチアにおいて開催される「第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」の日本館展示を主催します。このたび、日本館の展覧会概要が決定しましたので、お知らせいたします。なお、この展覧会は2020年春にプリチストン美術館（現在新築工事中）にて帰国展を開催する予定です。つきましては、貴媒体でのご紹介やご取材など賜りましたら幸甚に存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

記

■第58回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館 概要

【タイトル】 **Cosmo-Eggs | 宇宙の卵**

【主催/コミッショナー】 独立行政法人国際交流基金

【作家】 下道基行（したみち・もとゆき | 美術家）

安野太郎（やすの・たろう | 作曲家）

石倉敏明（いしくら・としあき | 人類学者、秋田公立美術大学准教授）

能作文徳（のうさく・ふみのり | 建築家、東京電機大学准教授）

【キュレーター】 服部浩之（はっとり・ひろゆき | キュレーター、秋田公立美術大学大学院准教授）

■服部浩之によるステートメント

私たち人間は、産業革命以降異常な勢いで地球上に都市生活の場を拡張し、環境にも大きな影響を及ぼし、様々な動植物を絶滅の危機に追いやっています。しかし直径約12,700kmという地球の大きさや46億年という長い時間を考えると、人はとてもちっぽけな存在でもあります。そんな地球という時空間において、人がいかに動植物や土地と関わり生きていくことができるか、思いを巡らせ思考する場を築きたいと考えました。様々な自然災害や人災に見舞われる日本に暮らす私たちが、地球という生態系における人間存在そのものを改めて問い、人間と非人間の共存や、限界が露呈しはじめている成長志向の社会を再考し、新たな暮らしのあり方を提示していくことはできないでしょうか。

展覧会はアーティストの下道基行が2015年に沖縄の八重山諸島で出会い、数年間リサーチと撮影を続けている「津波石」を起点とします。津波石は、大津波により海底から陸上に運ばれた巨石で、世界各地に散在します。災害の記憶を留める自然石でありながら、時には地域の信仰の対象となり、神話や伝説の一部となり、渡り鳥のコロニーや昆虫の棲家となって、自然と文化が混ざり合った独特の景観を形成してきました。下道は、隕石や巨大な卵のようにも見える津波石を広場、あるいはモニュメントに喩えます。下道の作品《津波石》を軸としながら、広場であるという思考を拡張し、作曲家、人類学者、建築家と協働することで、静かで穏やかな視覚世界に音楽が響き、ことばが重ねられ、統合された一つの空間に多様な身体経験を生み出します。一人の作家が国を代表するのではなく、異なった職能をもつ専門家の集団（コレクティブ）によって、現代の根源的課題を想像し思考する体験の場をつくることを試みます。

本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 文化事業部 事業第2チーム（担当：佐藤、大平）

Tel: 03-5369-6063 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: venezia58@jpf.go.jp

取材に関するお問い合わせ： コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

■参加作家 略歴

◆下道基行 (したみち・もとゆき)

1978年、岡山県生まれ。2001年、武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒。

2015年、豊田市美術館ライブラリーにて、また2016年には黒部市美術館にて個展を開催。「光州ビエンナーレ 2012」(韓国)、「Asian Art Biennial 2013」(台湾)、「あいちトリエンナーレ 2013」、「岡山芸術交流 2016」、「ESCAPE from the SEA」(マレーシア、2017)などグループ展への参加多数。光州ビエンナーレ 2012ではNOON芸術賞(新人賞)を、2015年、さがみはら写真新人奨励賞を受賞。

◆安野太郎 (やすの・たろう)

1979年、東京都生まれ。2002年、東京音楽大学作曲専攻卒。2004年、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)修了。

2008年-2010年、東京藝術大学音楽環境創造科教育研究助手。現在、日本大学芸術学部、東京造形大学非常勤講師。2014年「死の舞踏」(京都芸術センター)、2017年「『大霊廟 II』-テッドパフォーマンス」(BankART)にて個展・ソロコンサートを開催。2015年「TOKYO STORY」(トーキョーワンダーサイト)、「ゾンビオペラ『死の舞踏』」(Festival/Tokyo15)、2016年「Our Masters 土方巽/巽言」(Asia Culture Center, 韓国)、2017年「Radio Azja」(Teatr Powszechny, ポーランド)などグループ展・フェスティバルへ多数参加。2013年 第7回JFC作曲賞第1位、2017年 清流の国ぎふ芸術祭 Art Award In the CUBE 2017 高橋源一郎賞、2018年 KDCC2017 奨励賞を受賞。

◆石倉敏明 (いしくら・としあき)

1974年、東京都生まれ。2010年、中央大学総合政策研究科博士後期課程単位取得後退学。

2009年-2011年、多摩美術大学芸術人類学研究所助手。2011年より、明治大学野生の科学研究所研究員、2013年-2016年、秋田公立美術大学美術学部専任講師。2017年より、秋田公立美術大学美術学部准教授。

共著に、「野生めぐり 列島神話をめぐる12の旅」田附勝写真(淡交社、2015)、「Lixicon 現代人類学」奥野克己共編(以文社、2018)など多数。

◆能作文徳 (のうさく・ふみのり)

1982年、富山県生まれ。2012年、東京工業大学大学院建築学専攻博士課程修了(工学)。

2008年、Njiric+Architekti(クオアチア)。2010年より、能作文徳建築設計事務所。2012年-2018年、東京工業大学建築学系助教。2018年より、東京電機大学未来科学部建築学科准教授。

主な作品に、「高岡のゲストハウス」(2015)、「Bamboo Theater」(フィリピン、2017)、「西大井のあな 都市のワイルド・エコロジー」(2017-)など多数。また、2013年 SDレビュー-2013鹿島賞、2016年 第15回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展日本館展示特別表彰、2017年 SDレビュー-2017入選、など多数受賞。

本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 文化事業部 事業第2チーム (担当：佐藤、大平)

Tel: 03-5369-6063 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: venezia58@jpf.go.jp

取材に関するお問い合わせ： コミュニケーションセンター (広報担当：熊倉)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

■キュレーター 略歴

◆服部浩之（はっとり・ひろゆき）

1978年、愛知県生まれ。2006年、早稲田大学大学院修了（建築学）。

2009年-2016年、青森公立大学国際芸術センター青森[ACAC] 学芸員。2017年より、秋田公立美術大学大学院准教授。

アジアを中心に展覧会、リサーチ、プロジェクトなどを展開し、芸術と公共空間の関係を探求している。近年の企画に、「MEDIA/ART KITCHEN」（インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、日本（青森）、2013-2014）、「あいちトリエンナーレ2016」、「ESCAPE from the SEA」（マレーシア、2017）、「近くへの遠回り」（キューバ、2018）など多数。

■第58回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 全体概要

【会期】	2019年5月11日（土）～11月24日（日）
【会場】	ジャルディーニ地区（Giardini di Castello）、アルセナーレ地区（Arsenale）など
【総合ディレクター】	Ralph Rugoff
【総合テーマ】	未定
【公式ウェブサイト】	http://www.labiennale.org

【ヴェネチア・ビエンナーレ（Biennale di Venezia）について】

ヴェネチア・ビエンナーレは、イタリアの島都市ヴェネチアの市内各所を会場とする芸術の祭典です。1895年に最初の美術展が開かれて以来、120年以上の歴史を刻んでいます。近年、世界各地で美術を中心に、国際的な芸術祭が開催されるようになってきていますが、ヴェネチア・ビエンナーレはそれらのモデル・ケースとなった最も著名な存在です。「ビエンナーレ」とは「2年に一度」を意味するイタリア語で、同様な芸術祭の多くが「ビエンナーレ」や「トリエンナーレ」（3年に一度）と命名されているのは、ヴェネチア・ビエンナーレに範をとったものとされています。現在、美術展、建築展、音楽祭、映画祭、演劇祭などを独立部門として抱えるようになりましたが、そのうち美術展は、現代の美術の動向を俯瞰できる場として、また国別参加方式を採る数少ない国際展として世界の美術界の注目を集めています。

※広報用画像は次ページをご参照ください。

本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 文化事業部 事業第2チーム（担当：佐藤、大平）

Tel: 03-5369-6063 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: venezia58@jpf.go.jp

取材に関するお問い合わせ： コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

■広報用画像

画像を希望される方は、広報担当の熊倉（press@jpf.go.jp）までご連絡ください。

【ご使用時の注意点とお願い】

- ・画像のご使用は本展の広報目的のみに限ります。
- ・画像の掲載に際しては、作家名、作品名、作品情報及び所定のクレジットを必ず記載してください。
- ・画像の改変（トリミング、部分使用、文字のせ含む）、画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・事実関係確認のため、出版前に記事校正を広報担当者までお送りください。
- ・掲載誌又は、掲載記事を広報担当者までお送りください。



下道基行《津波石》(2015年~)より



下道基行《津波石》(2015年~)より



下道基行《新しい石器》(2016年~)より



安野太郎《大霊廟Ⅰ》岐阜県美術館 (2017年)、
写真撮影：池田泰教



「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」展示の様子、
作成：能作文徳建築設計事務所



「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」展示の様子、
作成：能作文徳建築設計事務所



「Cosmo-Eggs | 宇宙の卵」展示の様子、
作成：能作文徳建築設計事務所



服部浩之 Hiroyuki Hattori
写真撮影：Kuniya Oyamada



制作合宿の様子

本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 文化事業部 事業第2チーム (担当：佐藤、大平)

Tel: 03-5369-6063 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: venezia58@jpf.go.jp

取材に関するお問い合わせ： コミュニケーションセンター (広報担当：熊倉)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp